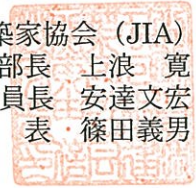




2015年4月13日

三菱地所株式会社 代表取締役社長 杉山博孝 様

公益社団法人 日本建築家協会 (JIA)
関東甲信越支部 支部長 上浪 寛
同 保存問題委員会 委員長 安達文宏
同 千代田地域会 代表 篠田義男



「東京會館ビル」「富士ビル」「東京商工会議所ビル」の再開発事業における 昭和中期の建築遺産価値継承についてのお願い

拝啓 時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

貴社におかれましては、日頃より文化の発展と継承に深く理解を示されていることに、心より敬意を表します。

さて、一昨年来の報道によりますと、貴社は、丸の内三丁目地区において「東京會館ビル」「富士ビル」「東京商工会議所ビル」の3棟を一体的に建て替える再開発事業を計画され、2018年春までに完成させる、とのことでした。

東京駅と皇居前の江戸濠とに挟まれた丸の内一帯は、昭和期に「100尺制限」のもとに建てられた近代建築群によって首都東京を象徴するビジネス街が形成され、特有の景観を呈していました。しかし特に平成期に至って、これらの多くが超高層ビルに建て替えられ、街並みには首都の歴史を語る要素が少なくなりつつあります。その中で、馬場先通りの南側の丸の内三丁目地区は1970年代のオフィスビル群が残り、これらには当時の最高水準の工業技術と、今日では再現が難しいクラフトマンシップに支えられた重厚かつ典雅な外観とインテリアが備わっていて、昭和中期の建築文化水準の証しとなる、貴重な遺産となっています。

弊会の「アーキテツガーデン 2013 建築祭」において、千代田地域会は貴社のご協力を仰ぎ、当該建物を含む丸の内のビル群の見学会を、金属工事・石工事・タイル工事の施工に携わった方々を招いて開催し、発注者、設計者、施工者と、多分野にわたる芸術家の緊密な連携のもとにつくられた、この時代の建築の継承すべき価値を再確認したところです。「東京會館ビル」は、とくに建築家・谷口吉郎が猪熊弦一郎や脇田和などの芸術家と協働した内部意匠において、総合芸術としての建築の魅力に満ちていますが、そればかりでなく、三つのビルには共通して、「100尺制限時代」の街並みの連続性を重視した都市建築の課題にそって、堅実な外装技術が展開され、玄関ホールや廊下・階段室の意匠が重視されており、そこに展開する華麗な職人技術を見ることが出来ます。これらには、高度な工業技術の達成というだけでなく、前川國男による東京海上ビルに代表される、超高層化による広場の創出という当時の建築家のもう一方の努力に比肩する、都市景観と、通り抜け自由なビルの共用空間の公共性への取り組み、という意義を持っており、失い難い価値を持っています。

いよいよ、この地区の再開発に着手されるにあたり、既に多々ご配慮いただいているかとも存じますが、弊会として、「東京會館ビル」のインテリアをはじめ、各ビルの貴重な建築遺産について、実測・写真撮影などによる詳細な記録保存をお願いするとともに、ぜひとも、一部であっても現物保存し、新しく形成される街区の内外に生かして頂けるよう、またこれにより、昭和中期の建築遺産の価値を後世へ伝承して頂けるよう、ここにお願い申し上げます。

日本建築家協会関東甲信越支部、同 保存問題委員会 並びに 同 千代田地域会は、これらの価値継承のために、調査記録活動およびその成果の共有化、保存意義の啓蒙活動等、公益社団法人として可能な限りの協力をさせて頂きたく存じます。

敬具

公益社団法人 日本建築家協会
The Japan Institute of Architects

関東・甲信越支部
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前2-3-18 JIA館
Tel.03-3408-8291 Fax.03-3408-8294